

森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別講習会 東北ブロック

開催日：2012年8月20日（月）

場所：岩手県盛岡市上米内（調査地点コード 030340）

講師：平井・稲垣（森林総研本所）、山田・小野（森林総研東北支所）

○概要

東北ブロックの現地調査を行う（株）宮城環境保全研究所の担当者2名を対象に調査指導を行った。例年盆過ぎには涼しくなる盛岡にあつて、当日は最高気温が34度と晴天で非常に暑いなか調査は行われた。

8時半にローソン盛岡桜台店にて待ち合わせ後、車2台で現地へ移動した。調査地は、県道からすぐのところであり、徒歩5分程度のアプローチしやすい場所にあつた。林相は上層がアカマツで、南（東）部を中心に一部スギ・ヒノキ人工林となっているが全般的に樹木の成長はよくない。林床にはササが多い。傾斜は十数度程度で比較的緩い。

8時50分に現場に到着し、概況調査の後、枯死木調査を開始した。枯死木調査では、今春の強風が原因と思われるアカマツの倒木が多くあり、普段あまり遭遇することがないであろう「幹折れ」の立枯木も存在していた。一方、対象範囲に根株がなかったため、調査範囲外の根株を例として、調査方法の練習・指導を行った。また、中心点そばに主軸が枯れていながらも萌芽しているクリがあつたため、萌芽樹木の扱いに関する説明も行った。

今回の参加者は、土壌調査の経験が数回程度であつたため、10時半から開始した土壌炭素蓄積量調査では始めに参加者全員がN地点に集まり、講師が一通りの調査を行いながら注意点を指導した。12時15分に終了し、昼食休憩後、12時50分から担当者が2班に分かれてWとSで調査を行い、講師が指導する形で実施した。残りのE地点はS地点を終えた班が15時より調査を開始し、後からW班が合流する形で行つた。断面調査ではH層が部分的に散見されたため、講師がH層の見分け方を説明した。今回Hを確認したことで、今後の調査でF層とH層あるいはH層と鉍質土壌との判別が比較的容易になるものと期待される。土壌中にはレキがほとんどなく、定積細土重測定のための細土円筒による定体積試料採取は容易であつた。そのため、レキがあつた場合のサンプリングと対処法については口頭で説明を行った。16時40分に現地での全調査を終了した。駐車場所へ戻つた後、全員で採取した試料を確認した。講評では、土壌採取時にやや深めに土壌を採取する傾向にあつたため、傾斜に配慮して土壌を深くまでとりすぎないように指導をして、17時に解散した。

夏の暑いさなかではあつたが、天候に恵まれ、調査を順調に終えることができた。調査中にいくつかの質問はあつたが、担当者が事前にマニュアルに目を通して内容や手順について概ね理解していたため、スムーズに指導することができた。



上 030340 W 地点の断面



中 030340 林分風景



下 030340 W 調査風景